

水生生物

(1) 水生生物相の概要

長崎市は、主に半島部や島嶼で構成されているため、川が短く、勾配が急で平野部はほとんどなく中流域や下流域の発達が悪い地形となっている。そのため、種数は、一生を川で過ごす純淡水種が少ない反面、生活環の一部を海で過ごす通し回遊種、汽水性の種および一時的に川へ入ってくる海産種が多いことが特徴とされる。特に半島の先端部や島嶼では顕著で、純淡水種がみられないところも少なくない。また、溺れ谷にできた僅かな平野部は、人の営みによって大きく改変された場所がほとんどで、高度成長期の埋め立てや水質悪化、長崎大水害時の河川改修など、河川に生息する水生生物に与えた影響は大きかったものと考えられる。最近では、下水道整備による生活排水の流入減少、公共事業の減少などにより以前に比べ、生息環境は改善してきているようであるが、ダムや溜池に放たれたオオクチバスやブルーギルなどの外来種がその上流・下流側の淵などでも確認され、河川全体の生物相への影響が懸念されるなど新たな問題も出てきている。

シーボルトが編集した「日本動物誌」の魚部には、約 40 種の淡水魚が原記載されていることは 2000 年のレッドデータブックですでに述べられているが、それ以降の報告で注目すべきは、1914 年に出された「長崎県師範学校所蔵 長崎県産魚類仮標本目録」である。この中には、現在県内では生息が知られていないスナヤツメやオヤニラミなどが記述されている。後者のオヤニラミは、水産庁が 1994 年に発刊した「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料」の中で県内での分布が文献上として浦上川と川棚川が挙げられている。文献名が不明なため出所が未知であるが、仮に事実であるなら、現在では考えられないような豊かな魚類相であったと思われる。なお、長崎県産魚類仮標本目録の標本は、昭和 20 年の原子爆弾により粉塵に帰したとされている。

前回のレッドデータブックは、魚類が 8 科 8 種、底生動物が 2 科 2 種であったが、その後 10 年以上が経過し、多くの調査・研究が行われ新たな発見や知見が加わった。また、水生生物から魚類・貝類など分類が変更されたことに併せ、平成の大合併により長崎市と 7 町が合併し地域が広がったことなどが、今回大幅な追加につながった。イトヨは、1936 年、河口から 4km 上流に設置してあったアユ捕獲用の築で 2 個体捕獲された記録以降、捕獲例がなく長崎県内を含め、市内では絶滅したようである。ハイガイも半分化石となった古い死殻が海岸に打ち上げられているのが稀に見つかるだけで、市内からは絶滅したと判断される。魚類のトビハゼ、タビラクチ、イドミミズハゼ、クボハゼ、オオヨシノボリ、十脚甲殻類のシラタエビ、ハマガニ、オサガニ、クシテガニ、貝類のフネアマガイ、ドロアワモチ、オカミミガイ、クリイロコミミガイ、イチョウシラトリ及びウスハマグリは、市内の生息場所が 1 ヶ所のみでの危機的な状況であり、小規模な河川改修等の生息環境変化でも容易に市内から消失するおそれがある。逆に 2000 年に挙げられていたスズキとミナミテナガエビは、市内には比較的多くの地点で生息が確認されたことから今回リストから外した。また、2010 年に挙げていたクロヨシノボリもその後の調査で新たな生息地が多く確認されたため外すなど若干の変更を行っている。

(2) ー ① 水生生物リスト (淡水性魚類)

	科名	和名	県区分	環境省区分	ページ
絶滅 (EX)	トゲウオ科	イトヨ	絶 滅 (EX)	—	113
絶滅危惧ⅠA類 (CR)	ウナギ科	オオウナギ	情 報 不 足 (DD)	—	113
	ハゼ科	トビハゼ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)	113
		タビラクチ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	113
		イドミミズハゼ	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	114
		ヒモハゼ	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	114
		チクゼンハゼ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	114
		クボハゼ	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	114
オオヨシノボリ	準絶滅危惧 (NT)	—	115		
絶滅危惧ⅠB類 (EN)	ドジョウ科	ドジョウ	準絶滅危惧 (NT)	—	115
	ナマズ科	ナマズ	—	—	115
	ハゼ科	タネハゼ	準絶滅危惧 (NT)	—	115
		クロコハゼ	準絶滅危惧 (NT)	—	116
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	メダカ科	メダカ	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	116
	ドンコ科	ドンコ	—	—	116
	ハゼ科	ボウスハゼ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	—	116
		マサゴハゼ	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	117
		ゴマハゼ	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	117
		ルリヨシノボリ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	—	117
準絶滅危惧 (NT)	コイ科	タカハヤ	—	—	117
	アユ科	アユ	—	—	118
	ユゴイ科	ユゴイ	準絶滅危惧 (NT)	—	118
	カワアナゴ科	カワアナゴ	準絶滅危惧 (NT)	—	118
	ハゼ科	シロウオ	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	118
		ウキゴリ	—	—	119
		ピリンゴ	—	—	119
		ヌマチチブ	—	—	119
情報不足 (DD)	フエダイ科	ゴマフエダイ	—	—	119
	カワアナゴ科	チチブモドキ	準絶滅危惧 (NT)	—	120

(2) — ② 水生生物リスト (剣尾類・十脚甲殻類)

	科名	和名	県区分	環境省区分	ページ
絶滅危惧ⅠA類 (CCR)	カフトガニ科	カフトガニ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	121
	テナガエビ科	シラタエビ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	—	121
	モクズガニ科	ハマガニ	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	—	121
絶滅危惧ⅠB類 (EN)	オサガニ科	オサガニ	準絶滅危惧 (NT)	—	121
	ムツハ アリアケガニ科	ムツハアリアケガニ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	—	122
	モクズガニ科	ヒメアシハラガニ	準絶滅危惧 (NT)	—	122
	ベンケイガニ科	クシテガニ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	—	122
ウモレベンケイガニ		準絶滅危惧 (NT)	—	122	
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	テナガエビ科	テナガエビ	準絶滅危惧 (NT)	—	123
	スナガニ科	ハクセンシオマネキ	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	123
	ムツハ アリアケガニ科	カワスナガニ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)	123
準絶滅危惧 (NT)	ヌマエビ科	ヒメヌマエビ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	—	123
		ヤマトヌマエビ	準絶滅危惧 (NT)	—	124
	モクズガニ科	ミナミアシハラガニ	準絶滅危惧 (NT)	—	124
情報不足 (DD)	テナガエビ科	イッテンコテナガエビ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	—	124
	コブシガニ科	カネココブシガニ	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	124
	モクズガニ科	トゲアシヒライソガニモドキ	情報不足 (DD)	—	125
	ベンケイガニ科	フジテガニ	準絶滅危惧 (NT)	—	125

(2) — ③ 水生生物リスト (貝類)

	科名	和名	県区分	環境省区分	ページ
絶滅 (EX)	フネガイ科	ハイガイ	絶滅危惧 I A類 (CR)	—	126
絶滅危惧 I A類 (CR)	ニシキウズガイ科	イボキサゴ	絶滅危惧 II 類 (VU)	—	126
	フネアマガイ科	フネアマガイ	—	—	126
	ミスゴマツボ科	ミスゴマツボ	絶滅危惧 I B類 (EN)	準絶滅危惧 (NT)	126
	ドロアワモチ科	ドロアワモチ	絶滅危惧 I B類 (EN)	絶滅危惧 II 類 (VU)	127
	オカミミガイ科	オカミミガイ	絶滅危惧 I B類 (EN)	絶滅危惧 II 類 (VU)	127
		オキヒラシイノミガイ	絶滅危惧 I A類 (CR)	絶滅危惧 I A類 (CR) 絶滅危惧 I B類 (EN)	127
		キヌカツギハマシイノミガイ	絶滅危惧 I A類 (CR)	絶滅危惧 II 類 (VU)	127
		クリイロコミミガイ	絶滅危惧 I A類 (CR)	絶滅危惧 I A類 (CR) 絶滅危惧 I B類 (EN)	128
	ツキガイ科	イセシラガイ	絶滅危惧 I A類 (CR)	—	128
	ニッコウガイ科	イチョウシラトリ	絶滅危惧 I B類 (EN)	—	128
	シオサザナミ科	フジナミガイ	—	—	128
	マルスタレガイ科	ウスハマグリ	絶滅危惧 I B類 (EN)	—	129
		ハマグリ	絶滅危惧 I B類 (EN)	—	129
絶滅危惧 I B類 (EN)	アマオブネガイ科	ヒメカノコ	—	—	129
		ヒロクチカノコガイ	絶滅危惧 I B類 (EN)	絶滅危惧 II 類 (VU)	129
	ウミニナ科	イボウミニナ	絶滅危惧 I A類 (CR)	絶滅危惧 II 類 (VU)	130
	タニシ科	マルタニシ	絶滅危惧 II 類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)	130
	オカミミガイ科	ナラヒオカミミガイ	絶滅危惧 I A類 (CR)	絶滅危惧 II 類 (VU)	130
	バカガイ科	ユキガイ	絶滅危惧 I B類 (EN)	—	130
マルスタレガイ科	イオウハマグリ	—	—	131	
絶滅危惧 II 類 (VU)	フトヘナタリ科	カワアイ	絶滅危惧 I B類 (EN)	絶滅危惧 II 類 (VU)	131
	トウガタカワニナ科	タケノコカワニナ	絶滅危惧 I B類 (EN)	絶滅危惧 II 類 (VU)	131
	モノアラガイ科	モノアラガイ	絶滅危惧 II 類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)	131
	シオサザナミ科	ハザクラ	準絶滅危惧 (NT)	—	132
	ドブシジミ科	ドブシジミ属の一種	情報不足 (DD)	—	132
	マルスタレガイ科	シオヤガイ	絶滅危惧 I B類 (EN)	—	132
準絶滅危惧 (NT)	ユキノカサガイ科	ツボミガイ	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	132
	アマオブネガイ科	カノコガイ	—	—	133
	ユキスズメガイ科	ミヤコドリ	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	133
	オニノツノガイ科	コゲツノブエガイ	絶滅危惧 I B類 (EN)	絶滅危惧 II 類 (VU)	133
	ウミニナ科	ウミニナ	絶滅危惧 II 類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)	133
	フトヘナタリ科	フトヘナタリ	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	134
		ヘナタリガイ	絶滅危惧 I B類 (EN)	準絶滅危惧 (NT)	134
	ミスゴマツボ科	エドガワミスゴマツボ	準絶滅危惧 (NT)	—	134
	ワカウラツボ科	カワグチツボ	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	134
	ヒラマキガイ科	クルマヒラマキガイ (レンズヒラマキガイ)	絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅危惧 II 類 (VU)	135
		ヒラマキガイモドキ	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	135
	フナガタガイ科	ウネナシトマヤガイ	—	—	135
	チドリマスオ科	クチバガイ	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	135
	マルスタレガイ科	オキシジミ	—	—	136
情報不足 (DD)	バイ科	バイ	絶滅危惧 I A類 (CR)	—	136
	イシガイ科	ドブガイ	—	—	136
	シジミ科	マシジミ	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	136

(3) ー ① 水生生物 (淡水性魚類)

イトヨ (トゲウオ科)

絶 滅(EX)

Gasterosteus aculeatus aculeatus (Linnaeus)

長崎県カテゴリー ; 絶 滅 (EX)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 浦上川
県内 ; 浦上川

摘要

全長5cmほどで、背鰭棘の鰭膜や分布状況から降海型と考えられる。1936年に浦上川河口から約4km上流にあったアユ捕獲用の築で2個体が採集されている。本種には遺伝的な交流がほとんどない日本海型と太平洋型の2型が存在する。1936年以降記録がなく絶滅としたが、その原因については不明である。

情報収集中

オオウナギ (ウナギ科)

絶滅危惧 I A類(CR)

Anguilla marmorata Quoy et Gaimard

長崎県カテゴリー ; 情報不足 (DD)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 浦上川、小島川、田原川、神浦川など
県内 ; 島原半島、西彼杵半島、五島列島、男女群島など

摘要

全長2mほどで、主に河川上中流域の流れが緩やかな場所に生息する。長崎県は、東シナ海側で本種の分布北限とされ、野母崎樺島町のオオウナギ井戸は、天然記念物に指定されている。近年、河川改修などにより、県内では減少したとされる。



長崎ペンギン水族館 写真提供

トビハゼ (ハゼ科)

絶滅危惧 I A類(CR)

Periophthalmus modestus Cantor

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 多良良川河口の1ヶ所
県内 ; 有明海沿岸各地、西海市、佐世保市、平戸市など

摘要

全長10cmほどに達し、大型個体のほとんどは雌である。河口域などの泥干潟に生息する。干潟上では胸鰭などを用いて活動し、水面を飛び跳ねて移動する。長崎市内の生息地である多良良川では、確認された個体数も少なく、泥干潟も小規模で、周囲が住宅地に囲まれているなど生息環境が脆弱な状況となっている。



撮影場所：佐賀県

タビラクチ (ハゼ科)

絶滅危惧 I A類(CR)

Apocryptodon punctatus Tomiyama

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)

分布

市内 ; 多良良川河口の1ヶ所
県内 ; 諫早市、佐世保市、平戸市、五島市、対馬市など

摘要

全長8cmほどになり、河口域などの泥干潟で、干潮時でも湿潤な場所や孔に生息する。長崎市、確認場所の多良良川でも、左岸にある船溜りの一部で採集された1例のみである。この場所は浚渫などによって容易に消失する。



イドミズハゼ (ハゼ科)**絶滅危惧 I A類(CR)***Luciogobius pallidus* Regan

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
 環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 琴海戸根原町の1ヶ所
 県内 ; 雲仙市、諫早市、川棚町、佐世保市、対馬市など

摘要

全長7cmほどに達し、河口や海岸にある砂礫質の浸透水がある場所で採集されている。市内では小水路から礫質海岸に流れ出している幅2m、長さ5m程の範囲内で、これまで3個体が確認されているのみ。生息地近くには人為的に改変された海岸が迫っており、生息場所自体が消失・改変してしまう恐れがある。

**ヒモハゼ (ハゼ科)****絶滅危惧 I A類(CR)***Eutaeniichthys gilli* Jordan et Snyder

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
 環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 八郎川、西海川、戸根原川
 県内 ; 県内各所

摘要

全長5cmほどに達し、河口や内湾奥の砂～砂泥質干潟で、アナジャコ類の生息孔で見ついている。長崎市内では現在埋立てられている八郎川河口の東望浜で、1966年頃の記録のみであったが、最近大村湾に注ぐ2河川で見ついている。市内には本種が生息するような干潟はほとんどない。

**チクゼンハゼ (ハゼ科)****絶滅危惧 I A類(CR)***Gymnogobius uchidai* (Takagi)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
 環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 八郎川、西海川、戸根原川
 県内 ; 松浦市、平戸市、佐世保市、川棚町、西海市など

摘要

全長4cmほどになり、河口や内湾奥の砂～砂泥質干潟で、アナジャコ類の生息孔で見ついている。ヒモハゼと同様、1966年頃の東望浜の記録以降確認されていなかったが、最近大村湾に注ぐ2河川の河口で採集されている。干潟の保全が急務である。

**クボハゼ (ハゼ科)****絶滅危惧 I A類(CR)***Gymnogobius scrobiculatus* (Takagi)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
 環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)

分布

市内 ; 多良良川河口の1ヶ所
 県内 ; 県内各所

摘要

全長4cmほどになり、河口や内湾奥の砂泥～砂礫質干潟の、アナジャコ類の生息孔で見ついている。長崎市内では、多良良川汽水域にある砂礫底で小型の2個体を採集したのみである。県内では各所で見ついている。



(3) ー ① 水生生物 (淡水性魚類)

オオヨシノボリ (ハゼ科)

絶滅危惧 I A類(CR)

Rhinogobius fluviatilis Tanaka

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 八郎川水系現川川の1ヶ所
県内 ; 平戸市、佐々町、佐世保市、東彼杵町、大村市など

摘要

全長10cmほどになり、ヨシノボリ類の中では大型になる。河川上流から中流の流れがある瀬で見つかることが多い。県内では、上記の地域の河川で見つかることが多いが、市内では少ない。確認された現川川では、上流側に魚道が設置されていない落差工がある。



ドジョウ (ドジョウ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Misgurnus anguillicaudatus (Cantor)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 田原川、鹿尾川、中島川、八郎川、四戸ノ川など
県内 ; 県内各所

摘要

全長10cmを越え、河川下流域、水田、用水路、溜池などの緩流域や止水域にある泥底に生息する。市内では市街地を中心にほとんど見ることができなくなったが、かろうじて鹿尾川や中島川の一部に生息することが最近明らかとなった。鑑賞魚用の餌用として販売されており、遺伝的攪乱が懸念される。



ナマズ (ナマズ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Silurus asotus Linnaeus

長崎県カテゴリー ; —
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 中島川、浦上川、八郎川、小江川
県内 ; 諫早市、五島市、佐世保市、大村市、川棚町など

摘要

全長60cmほどになり、河川の緩流域に生息する。市内では浦上川や八郎川で以前から生息が知られていたが、最近になって中島川と小江川で見つかっており、自然分布かどうか検討する必要がある。



タネハゼ (ハゼ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Callogobius tanegasimae (Snyder)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 八郎川、多以良川、出津川
県内 ; 雲仙市、時津町、五島市、西海市、平戸市など

摘要

全長12cmほどになり、河川汽水域の泥から砂泥底に生息し、石の下やカキ殻の間隙などに潜んでいることが多い。五島市では一度に多くの個体を確認することがあるが、市内では少数が見つかる程度である。



八郎川産の幼魚

クロコハゼ (ハゼ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Drombus sp.

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 多以良川、小江川、宮崎川
県内 ; 雲仙市、五島市、新上五島町、佐世保市、対馬市など

摘要

全長7cmほどに達し、河口や海岸にあるカキ殻が堆積した場所などで採集されている。多以良川では、これまで多くの個体が確認されているが、それ以外ではまれである。



多以良川産

メダカ (メダカ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Oryzias latipes latipes (Temminck et Schlegel)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 大江川、大浦川、村松川、戸石川、江川川など
県内 ; 県内各所

摘要

全長3cmほどになり、平野部の溜池、用水路、河川下流域の緩流部に生息する。市内では市街地を中心に生息地が減少している。市販されている個体を野外放流することによる遺伝的攪乱が懸念される。



撮影地 : 大浦川

ドンコ (ドンコ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Odontobutis obscura (Temminck et Schlegel)

長崎県カテゴリー ; —
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 大江川、四戸ノ川、中島川、浦上川、河通川など
県内 ; 壱岐市、松浦市、佐世保市、諫早市、南島原市など

摘要

全長20cmを越え、河川の流がゆるやかな淵などに生息し、物陰に潜んでいる。県内では多くの河川で生息が確認されているが、市内の生息河川は限られている。河川工事などによる生息環境の悪化が懸念される。



ボウズハゼ (ハゼ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Sicyopterus japonicus (Tanaka)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 黒崎川、相川川、大浦川、中島川、神浦川
県内 ; 五島市、西海市

摘要

全長10cmを越え、河川の流れのある場所で見つかることが多い。石などに繁茂した付着藻類を食べる。市内では、黒崎川で多産し、産卵も毎年確認されていたが、河川改修工事によって産卵場所が消失した。それ以外の河川では時折採集される程度である。



撮影地 : 中島川

(3) ー ① 水生生物 (淡水性魚類)

マサゴハゼ (ハゼ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Pseudogobius masago (Tomiyama)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 多以良川、西海川、戸根原川
県内 ; 県内各所

摘要

全長3cmほどの小型のハゼ。河口や内湾にある泥干潟に生息し、干潮時には滲筋で見つかることが多い。市内では限られた河川のみに生息し、生息範囲も決して広くない。環境が悪化しヘドロ化するとすぐに姿を消してしまう。



ゴマハゼ (ハゼ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Pandaka sp.

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 琴海尾戸町
県内 ; 対馬市、佐世保市、平戸市、壱岐市、新上五島町など

摘要

全長2cmほどの小型のハゼ。河口や内湾奥の流れがほとんどない場所で群れていることが多い。市内では旧野母崎町や鹿尾川での記録があるが、最近では確認できず、絶滅が心配されていたが、最近大村湾岸で新たな生息地が確認された。



ルリヨシノボリ (ハゼ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Rhinogobius sp. CO

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 神浦川、式見川
県内 ; 西海市

摘要

全長10cmほどになり、河川の上・中流域に生息し、急流部で見つかることが多い。市内では神浦川のみで、特に神浦ダム上流側で多数の個体が確認されていたが、最近式見川で1個体のみではあるが確認されている。



神浦川産

タカハヤ (コイ科)

準絶滅危惧(NT)

Rhynchocypris oxycephalus (Sauvage et Dabry de Thiersant)

長崎県カテゴリー ; —
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 相川、西海川、式見川、浦上川、鹿尾川、河通川など
県内 ; 県内各所 (壱岐市を除く)

摘要

全長10cmほどになり、河川の上・中流域に生息し、カワムツよりも上流側で見つかることが多い。市内でも上流部に生息している。なお、長崎半島の鹿尾川より先端の川には生息していない。



村松川産

アユ (アユ科)

準絶滅危惧(NT)

Plecoglossus altivelis altivelis Temminck et Schlegel

長崎県カテゴリー ; —
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 神浦川、黒崎川、手崎川、村松川、中島川など
県内 ; 県内各所

摘要

全長20cmを越え、河川の中・下流域に生息する。市内では、多くの河川で遡上が確認されているが、堰などで妨げられたり、上流側が三面コンクリート張りであったりと夏まで生息できない河川も少なくない。



ユゴイ (ユゴイ科)

準絶滅危惧(NT)

Kuhlia marginata (Cuvier)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 大浦川、神浦川
県内 ; 対馬市、平戸市、新上五島町、五島市、西海市

摘要

全長15cmほどになり、河川の上流域から汽水域まで広い範囲で見られる。市内では大浦川の上流部でよく確認していたが、2010年秋には神浦川河川公園で多数見つかっている。上流まで遡上するので、堰などの河川横断物が生息範囲を狭めている可能性がある。



大浦川産

カワアナゴ (カワアナゴ科)

準絶滅危惧(NT)

Eleotris oxycephala Temminck et Schlegel

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 中島川、浦上川、鹿尾川、手熊川、八郎川、日見川など
県内 ; 対馬市、西海市、南島原市、佐世保市、諫早市など

摘要

全長25cm程になり、河川の下流域から汽水域に生息し、物陰などに潜んでいることが多い。市内では、角力灘や橋湾に注ぐ河川で確認されている。大村湾では戸根原川で1個体を確認しているのみである。



宮崎川産

シロウオ (ハゼ科)

準絶滅危惧(NT)

Leucopsarion petersii Hilgendorf

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 市内22河川
県内 ; 松浦市、平戸市、佐々町、佐世保市、雲仙市など

摘要

全長5cmほどになり、2月頃になると海から川へ遡上し、主に下流域に産卵する。市内では、まだ約半数の河川で遡上が確認されており、手崎川では小規模ながら四手網漁がなされている。その反面、浦上川や多以良川など遡上しなくなった河川もある。



撮影地：戸根川

(3) — ① 水生生物 (淡水性魚類)

ウキゴリ (ハゼ科)

準絶滅危惧(NT)

Gymnogobius urotaenia (Hilgendorf)

長崎県カテゴリー ; —
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 大村湾に注ぐ河川、池田川 (川原大池)
県内 ; 松浦市、佐世保市、大村市、長与町、東彼杵町など

摘要

全長10cmを越え、河川中流域から汽水域までの緩流域に生息する。同属のスミウキゴリは市内各所で見ついているが、本種は大村湾に注ぐ河川で主に確認されている。



ビリンゴ (ハゼ科)

準絶滅危惧(NT)

Gymnogobius breunigii (Steindachner)

長崎県カテゴリー ; —
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 大村湾に注ぐ河川、八郎川
県内 ; 県内各所

摘要

全長5cmほどになり、河川汽水域の泥から砂泥底に生息し、群れていることが多い。県内では各所で確認されているものの、市内では砂泥底の場所が少ないためなのか、大村湾岸以外では限定的である。



ヌマチチブ (ハゼ科)

準絶滅危惧(NT)

Tridentiger brevispinis Katsuyama, Arai et Nakamura

長崎県カテゴリー ; —
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 戸石川、浦上川、飯香浦川、若菜川、手崎川など
県内 ; 県内各所

摘要

全長15cmほどになり、河川中流域から汽水域に生息し、流れが緩やかな場所に多い。市内では橋湾側でみられることが多く、それ以外の地域ではまれである。同属のチチブは、市内河川汽水域各所に生息する。



ゴマフエダイ (フェダイ科)

情報不足(DD)

Lutjanus argentimaculatus (Forsskål)

長崎県カテゴリー ; —
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 飯香浦川
県内 ; 対馬市、五島市

摘要

全長20cmほどになり、成魚は主に内湾に生息する。幼魚は河川の淡水域から汽水域でみられる。市内では飯香浦川で11月に2年続けて幼魚が確認されている。市内での繁殖状況等が不明であり、現状では情報不足とした。



飯香浦川産

チチブモドキ (カワアナゴ科)

情報不足(DD)

Eleotris acanthopoma Bleeker

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 飯香浦川、黒崎川、浦上川、式見川、江川、八郎川
県内 ; 南島原市、諫早市、西海市、対馬市、新上五島町など

摘要

全長12cmほどになり、河川の下流域から汽水域に生息する。市内では1967年に浦上川で報告されたのが最初である。最近では越冬した個体を時折確認しており、市内で繁殖している可能性もある。



鹿児島県産

(3) — ② 水生生物 (剣尾類・十脚甲殻類)

カブトガニ (カブトガニ科)

絶滅危惧 I A類(CR)

Tachypleus tridentatus (Leach)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)

分布

市内 ; 橘湾、大村湾
県内 ; 佐世保市、西海市、川棚町、佐々町など

摘要

体長は雄で50cm、雌で60cmほどになり、成体はやや深めの沿岸に生息するが、幼生は河口付近にできる砂泥干潟で見つかることが多い。市内では、以前長崎湾を含め各所で生息が確認されていたが、現在ではまれに成体が沖合で捕獲される程度である。産卵場や幼生も見つかってなく、市内での繁殖は行われていないと考えられる。



シラタエビ (テナガエビ科)

絶滅危惧 I A類(CR)

Exopalaemon orientis Holthuis

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 八郎川
県内 ; 諫早市、雲仙市、佐世保市、西海市、平戸市など

摘要

体長7cmほどになり、河川汽水域の泥底のやや濁ったところで見つかることが多い。市内では1990年代前半に八郎川で確認されたことがあるが、それ以降見つかっていない。長崎市周辺では生息が確認されているので、今後再発見される可能性もある。



ハマガニ (モクスガニ科)

絶滅危惧 I A類(CR)

Chasmagnathus convexus (De Haan)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 多以良川河口の1ヶ所
県内 ; 諫早市、雲仙市、南島原市、西海市、大村市など

摘要

甲幅が3cmを超える干潟では大型のカニで、河口や内湾奥部のヨシなどの塩生植物が生育する場所で見つかることが多い。市内では、多以良川汽水域の脇にあるヨシが生えている放棄水田のみで確認されている。埋め立てなどにより生息地が消失する危険がある。



オサガニ (オサガニ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Macrophthalmus abbreviatus Manning et Holthuis

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 北浦川
県内 ; 西海市、川棚町、東彼杵町、松浦市など

摘要

甲幅3cmを越え、河口や内湾奥部の砂泥から砂干潟に生息し、よく干潟に浅く潜っている。市内では、北浦川河口部で見つかるが、他の場所でも見つかる可能性もある。干潟の保全が必要である。



ムツハリアケガニ (ムツハリアケガニ科) **絶滅危惧 I B類(EN)**

Camptandrium sexdentatum Stimpson

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 多以良川、西海川
県内 ; 諫早市、五島市、西海市、雲仙市、佐世保市など

摘要

甲幅1cmほどで、河口や内湾奥部の泥底に生息する。県内では有明海など各所で見ついているが、市内では2河川のみと少ない。河口域の保全が必要である。



ヒメアシハラガニ (モクスガニ科) **絶滅危惧 I B類(EN)**

Helicana japonica (K. Sakai et Yatsuzuka)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 八郎川、多以良川
県内 ; 雲仙市、南島原市、島原市、西海市、平戸市など

摘要

甲幅2cmほどになり、河口や内湾の砂泥干潟に生息し、他のカニ類を捕食する。そのため、チゴガニなどのカニ類が豊富にいる場所でないと確認することができない。市内では2河川のみでしか見つかってなく、確認した数も少ない。



クシテガニ (ベンケイガニ科) **絶滅危惧 I B類(EN)**

Parasesarma plicatum (Latreille)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 西海川
県内 ; 佐世保市、島原市、西海市、諫早市、平戸市など

摘要

甲幅3cmほどになり、河口や内湾奥部の泥干潟上に生育するヨシ原内に生息する。別名オオユビアカベンケイガニ。市内では、西海川河口付近のヨシ原にのみ生息している。ヨシ原の保護が必要である。



ウモレベンケイガニ (ベンケイガニ科) **絶滅危惧 I B類(EN)**

Clistocoeloma sinensis Shen

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 多以良川、西海川、琴海尾戸町
県内 ; 諫早市、西海市、時津町、大村市、川棚町など

摘要

甲幅1.5cmほどになり、河口や内湾の泥干潟上に生育するヨシなどの塩生植物の根際や群落内にある石の下などで見つかることが多い。市内では数ヶ所で見ついているが少ない。泥干潟上に生育する塩生植物の保護が必要である。



(3) - ② 水生生物 (剣尾類・十脚甲殻類)

テナガエビ (テナガエビ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Macrobrachium nipponense (de Haan)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 宮崎川、日見川、若菜川、浦上川、宮摺川、八郎川など
県内 ; 諫早市、雲仙市、南島原市、佐世保市、平戸市など

摘要

体長10cmほどになり、河川の下流域や汽水域に生息する。市内では主に橘湾側で見つかることが多いが、浦上川など角力灘へ注ぐ河川でも見つかっている。同属のミナミテナガエビやヒラテナガエビに比べ少なく、希に採集される程度である。



ハクセンシオマネキ (スナガニ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Uca lactea (de Haan)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 多以良川、三重川、神浦川、小江川、戸石川、八郎川など
県内 ; 松浦市、五島市、西海市、佐世保市、諫早市、南島原市など

摘要

甲幅1.5cmほどになり、河口や内湾奥の砂泥干潟に生息する。神浦川では最近河川改修により、生息地が大きく改変されている。一方、長崎湾奥の人工的な干潟である水辺の森公園で1個体ではあるが見つかっている。



カワスナガニ (ムツハアリアケガニ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Deiratonotus japonicus (Sakai)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 八郎川、村松川、戸根原川、手崎川、大江川、長浦川など
県内 ; 長与町、西海市、時津町、大村市、佐世保市、対馬市など

摘要

甲幅1cmほどになり、河川の汽水域上限付近にある転石帯に生息する。市内では大村湾に注ぐ河川で主に見つかっているが、八郎川など他の海域に注ぐ一部の川にも生息している。



ヒメヌマエビ (ヌマエビ科)

準絶滅危惧(NT)

Caridina serratiostris de Man

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 市内各所
県内 ; 対馬市、西海市、東彼杵町、佐世保市、壱岐市など

摘要

体長2cmほどで、雌の方が大型になる。河川の中流域から下流域に生息し、流れが緩やかな川底の落ち葉などで見られる。市内では角力灘や橘湾側で主に確認されるが、大村湾に注ぐ戸根原川で1個体確認された例もある。



ヤマトヌマエビ (ヌマエビ科)

準絶滅危惧(NT)

Caridina multidentata Stimpson

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 神浦川、出津川、黒崎川、式見川、鹿尾川、宮摺川など
県内 ; 五島市、平戸市、新上五島町、西海市、佐世保市など

摘要

体長4cmほどで、雌の方が大型になる。河川の上流域から中流域に生息し、淵の底などに堆積した落ち葉などに付いていることが多い。市内では角力灘と橘湾に注ぐ河川でよく確認されているが、大村湾側では見つかっていない。



ミナミアシハラガニ (モクスガニ科)

準絶滅危惧(NT)

Helice leachi Hess

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 多以良川、北浦川
県内 ; 五島市、川棚町、西海市、平戸市、松浦市、対馬市など

摘要

甲幅2.5cmほどになり、河口や内湾の陸側に近い泥干潟上にある石の下などに生息する。別名リーチアシハラガニ。市内では2河川で確認されているが、他の場所でも見つかる可能性がある。埋め立てや護岸の影響を受けやすい種である。



イッテンコテナガエビ (テナガエビ科)

情報不足(DD)

Palaemon concinnus Dana

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 旧長崎市、旧野母崎町
県内 ; 西海市

摘要

体長3cmほどになり、河川汽水域に生息する。市内では暖流の影響が比較的強い数ヶ所で見ついているが、1河川では河川改修以降生息が確認できていない。また別の河川でも河川改修工事中の場所で見ついている。



カネコブシガニ (コブシガニ科)

情報不足(DD)

Philyra kanekoi Sakai

長崎県カテゴリー ; 情報不足 (DD)
環境省カテゴリー ; 情報不足 (DD)

分布

市内 ; 多以良川
県内 ; 川棚町、佐々町、佐世保市

摘要

甲幅1cmほどになり、河口や内湾の砂泥から砂礫底に生息する。長崎が原記載の種で、名の由来は、長崎の医師、金子一狼氏にちなむ。情報が少なく、生態面で不明な点が多い。



(3) - ② 水生生物 (剣尾類・十脚甲殻類)

トゲアシヒライソガニモドキ (モクスガニ科) 情報不足(DD)

Parapyxidognathus deianira (de Man)

長崎県カテゴリー ; 情報不足(DD)

環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 鹿尾川

県内 ; —

摘要

甲幅1.5cmほどになり、河川汽水域の転石帯に生息する。市内では、鹿尾川で1例確認したのみ。その場所は、現在河川改修によって大幅に改変した。



フジテガニ (ベンケイガニ科) 情報不足(DD)

Clistocoeloma villosum (A. Milne-Edwards)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧(NT)

環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 多以良川河口、琴海尾戸町

県内 ; 平戸市、五島市、佐世保市、西海市

摘要

甲幅1.5cmほどになり、河口や内湾の礫質干潟やイネ科などの塩生植物一帯に生息する。市内では、多以良川で1個体見つかっていたが、最近、大村湾岸でも生息していることが明らかとなった。



ハイガイ (フネガイ科)

絶 滅(EX)

Tegillarca granosa (Linnaeus)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A 類 (CR)
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 高銚島、大崎町、西海川河口、四戸ノ川河口(全て古死殻)
 県内 ; 諫早湾

摘要

殻長5cmほどになり、河口や内湾の泥底に生息する二枚貝。市内では、数ヶ所で古い死殻が見つまっているのみで、絶滅したものと考えられる。県内でも埋め立てなどにより生息環境が悪化しており、生息場所は局所的である。



諫早湾産

イボキサゴ (ニシキウズガイ科)

絶滅危惧 I A 類(CR)

Umboonium moniliferum (Lamarck)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 北浦川河口、多以良川河口、小江川河口、八郎川河口など
 県内 ; 壱岐市、西海市、佐世保市、南島原市、新上五島町など

摘要

殻径2cmほどになり、内湾にある砂～砂泥質の前浜干潟などに生息する。市内では北浦川に生貝が確認されているが、それ以外の場所では死殻のみである。

**フネアマガイ** (フネアマガイ科)

絶滅危惧 I A 類(CR)

Septaria porcellana (Linnaeus)

長崎県カテゴリー ; —
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 市内北西部の1か所
 県内 ; 長崎市のみ

摘要

殻径3cmほどになり、汽水域から下流域に生息し、護岸部や石などに付着している。市内の生息地には小型から大型まで多数の個体が確認されており、一度に30～40個体を確認できることもある。しかしながら、生息範囲は局所的で、河川改修などで容易に消失するものと思われる。

**ミズゴマツボ** (ミズゴマツボ科)

絶滅危惧 I A 類(CR)

Stenothyra japonica Kuroda

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B 類 (EN)
 環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 大江川、西海川
 県内 ; 諫早市、五島市、南島原市、佐世保市、大村市など

摘要

殻高5mmほどになる小型種。河川の下流域や水田、用水路の泥底で見つかることが多い。大江川は、死殻のみの確認であり、上・中流部が西海市を流れているため、西海市から流下した死殻を確認した可能性がある。確認場所の両河川とも狭い範囲でしか確認されていないが、今後新たな産地が確認される可能性がある。



(3) — ③ 水生生物 (淡水性貝類)

ドロアワモチ (ドロアワモチ科)

絶滅危惧 I A類 (CR)

Onchidium sp.1

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 多良良川河口の1ヶ所
県内 ; 五島市、対馬市、西海市、佐世保市、平戸市など

摘要

体長は3cmほどになり、内湾や河口の泥干潟に生息している。市内では、多良良川国道橋付近に生息しているが、泥干潟自体が狭く、本種の生息場所も限定的である。そのため、生息地での小規模な河川改修や埋め立てでも容易に消失するものと思われる。



オカミミガイ (オカミミガイ科)

絶滅危惧 I A類 (CR)

Ellobium chinense (Pfeiffer)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 旧琴海町
県内 ; 諫早市、大村市、佐世保市、五島市、新上五島町など

摘要

殻高4cmほどになり、河口や内湾奥部に生育するヨシやハマボウなどの塩生植物の周辺に生息し、流木などの下に付着していることが多い。市内では、北部の入江で1個体のみが確認されたのみである。この生息場所は、船の係留場所となっており、近くまでコンクリートで敷設してあるなど、危機的な状況となっている。



オキヒラシイノミガイ (オカミミガイ科)

絶滅危惧 I A類 (CR)

Pythia cecillei (Philippi)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

分布

市内 ;
県内 ; 県北部、県中部

摘要

殻高2cmを越え、河口や内湾奥部の塩生植物などの群落内で見つかることが多い。市内では、北部の入江で複数個体のみが数ヶ所で確認されたのみである。生息場所の一つは、船の係留場所となっており、近くまでコンクリートで敷設してあるなど、危機的な状況となっている。



キヌカツギハマシイノミガイ (オカミミガイ科) 絶滅危惧 I A類 (CR)

Melampus sincaporensis Pfeiffer

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 旧琴海町
県内 ; 諫早市、大村市、五島市、西海市など

摘要

殻高1cmほどになり、河口や内湾奥部のヨシ原など塩生植物の群落内で見つかることが多い。市内では北部にあるヨシ原数ヶ所で生息地が見つかっているが、ヨシ原自体が小規模で、埋め立てなどで容易に消失する状況である。



クイロコミミガイ (オカミミガイ科)

絶滅危惧 I A類 (CR)

Laemodonta siamensis (Morelete)長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)**分布**市内 ; 旧長崎市
県内 ; 諫早市、大村市、西海市、平戸市、壱岐市、五島市など**摘要**

内湾や河口の泥干潟に生息し、塩生植物群落内のカニの生息孔が石の下へ続いているような場所で見つかることが多い。市内でもイネ科の塩生植物内にある石の下で確認しているが、確認された個体数も少なく、局所的である。

**イセシラガイ** (ツキガイ科)

絶滅危惧 I A類 (CR)

Anodontia stearnsiana Oyama長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)
環境省カテゴリー ; —**分布**市内 ; 西海川、大江川、多以良川 (全て死殻)
県内 ; 西海市、南島原市、壱岐市 (全て死殻)**摘要**

殻長5cmほどになり、潮間帯から水深約20mの泥底に深くもぐって生息している。市内では殻皮が残っている死殻を確認しているが、すでに絶滅している可能性も否定できない。今後生貝の発見が課題である。



撮影場所：南島原市 (死殻)

イチョウシラトリ (ニッコウガイ科)

絶滅危惧 I A類 (CR)

Pistris capsoides (Lamarck)長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー ; —**分布**市内 ; 旧長崎市
県内 ; 諫早市、大村市、佐世保市、西海市、壱岐市、五島市など**摘要**

殻長4cmほどになり、河口や内湾奥部の泥底に生息している。市内では、1河川のみで確認されており、河川内でも100㎡程のごく限られた場所でしか見つかっていない。そのため埋立てや浚渫で容易に消失してしまう状況である。

**フジナミガイ** (シオサザナミ科)

絶滅危惧 I A類 (CR)

Soletellina boeddinghausi Lischke長崎県カテゴリー ; —
環境省カテゴリー ; —**分布**市内 ; 長崎半島南部 (古い死殻)
県内 ; 平戸市 (古い死殻)**摘要**

殻長10cmほどになり、潮間帯から水深約20mの砂底に生息する。市内では長崎半島南部にある砂浜で希に古い死殻が打ち上げられているのが確認されるのみであり、すでに絶滅している可能性もある。なお、同属のムラサキガイは大村湾岸に比較的多く生息する。



山口県産

(3) — ③ 水生生物（淡水性貝類）

ウスハマグリ（マルスダレガイ科）

絶滅危惧ⅠA類(CR)

Pitar japonicum Kuroda et Kawamoto

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧ⅠB類(EN)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 八郎川河口
県内 ; 佐世保市、川棚町、壱岐市、南島原市

摘要

殻長4cmほどになり、水深5~50mほどの細砂底に生息し、生時は殻表面に砂粒を付けている。県内では佐世保市の干潟で見つかるが、市内では八郎川河口に架かる有料道路沖側の水深5mほどの場所で見つかる。浚渫などによる生息環境の改変が脅威である。



ハマグリ（マルスダレガイ科）

絶滅危惧ⅠA類(CR)

Meretrix lusoria (Röding)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧ⅠB類(EN)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 大村湾流入各河川、八郎川、多良良川など
県内 ; 平戸市、西海市、佐世保市、大村市、諫早市など

摘要

殻長10cmほどになり、河口や内湾の砂泥干潟から水深20m位にまで生息している。市内では、本種と考えられる個体が主に大村湾岸で確認されている。河口干潟の埋め立てや乱獲が脅威として挙げられる。



大村湾産

ヒメカノコ（アマオブネガイ科）

絶滅危惧ⅠB類(EN)

Clithon oualaniensis Lesson

長崎県カテゴリー ; —
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 西海川、戸根原川など
県内 ; 西海市

摘要

殻径1cmほどになり、河口や内湾奥部の海草類が繁茂する砂から砂礫底に生息する。市内では、リュウノヒゲモが繁茂する場所やウミニナやイボウミニナが生息する砂干潟で確認している。県内でも生息地が少なく、浚渫や河川改修など人為的な改変で生存が脅かされる可能性がある。



ウミニナに付着した個体

ヒロクチカノコガイ（アマオブネガイ科）

絶滅危惧ⅠB類(EN)

Neritina cornucopia Benson

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧ⅠB類(EN)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

分布

市内 ; 西海川、形上湾奥部など
県内 ; 諫早市、雲仙市、南島原市、西海市、島原市など

摘要

殻径2cmほどになり、河口や内湾奥部にある干潟に生息し、流木や護岸などに付着している。西海川は、県内でも有数の生息地の一つで、汽水域上限から村松川合流点付近のヨシ原内まで確認している。市内では大村湾以外で確認できていない。大村湾の干潟の保全が必要である。



イボウミニナ (ウミニナ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Batillaria zonalis (Bruguere)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)
 環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 西海川、戸根川、戸根原川、大川川、大江川など
 県内 ; 壱岐市、松浦市、佐世保市、平戸市、大村市など

摘要

殻高4cmほどになり、河口や内湾の泥～砂泥干潟に生息し、ウミニナと同所で見つかることもあるが、潮位が低い場所に多い。市内では大村湾流入河川の河口の各所で主に見つかっているが、それ以外では希である。今後、河口干潟の生息環境の悪化を防ぐ手立てが必要である。

**マルタニシ** (タニシ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Cipangopaludina chinensis laeta (Martens)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
 環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 川下川、西海川、手崎川、三重川、大江川、八郎川
 県内 ; 県内各所

摘要

殻高4cmほどになり、水田、用水路、湿地および溜池などに生息する。市内では、限られた水域にしか生息していない。黒崎永田湿地自然公園以外では局所的で数も多くないようである。水田の冬季の乾燥化防止や減農薬化が必要である。

**ナラビオカミミガイ** (オカミミガイ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Auriculastra duplicata (Pfeiffer)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)
 環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 旧琴海町
 県内 ; 諫早市、西海市、大村市、佐世保市、五島市、平戸市

摘要

殻高5mmほどになり、河口や内湾奥部にある泥干潟に生育する塩生植物内にある石の下や流木下などに付着している。市内でも同様の環境の数ヶ所で見つかっているが、どの場所も確認した数は少ない。生息場所が干潟でも陸地に近く、埋立てや改修の対象となりやすい。

**ユキガイ** (バカガイ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Meropesta nicobarica (Gmelin)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 大江川、多以良川
 県内 ; 壱岐市、川棚町、松浦市、佐世保市、平戸市、西海市など

摘要

殻長4cmほどになり、河口や内湾の水深約20mまでの砂泥底に生息する。生貝は薄い膜に覆われている。市内では、上述の2河川の河口部で死殻を確認しているが、大村湾岸の他の河川でも見つかる可能性がある。大江川では死後間もない死殻を多数確認しているので生貝も近隣に生息しているものと考えられる。



(3) — ③ 水生生物 (淡水性貝類)

イオウハマグリ (マルスダレガイ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Pitar sulfureum Pilsbry

長崎県カテゴリー ; —
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 多以良川、大川川、大江川、西海川、戸根原川
県内 ; 壱岐市、大村市、五島市、西海市、佐世保市、平戸市など

摘要

殻長3cmほどになり、河口や内湾奥部の泥から砂泥干潟に浅めにもぐって生息している。市内では河口部に広がる砂泥干潟で見つかっている。生息地では死殻もよくみかけるので、ある程度の個体数が維持されているものと思われる。河口部の浚渫や護岸工事が脅威である。



カワアイ (フトヘナタリ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Cerithidea djadjariensis (Martin)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 多以良川、西海川、浦上川(古い死殻)
県内 ; 県内各所

摘要

殻高4cmほどになり、河口や内湾の泥から砂泥干潟に生息する。干潟でも湿った場所で見つかることが多い。市内では、西海川河口付近で多産する場所が残されているが、多以良川では他のフトヘナタリ科の種に比べ少ない。海岸開発によって生息環境を破壊しないことが望まれる。



タケノコカワニナ (トウガタカワニナ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Stenomelania rufescens (Martens)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 小江川、鹿尾川、手熊川、八郎川、大浦川、宮崎川など
県内 ; 諫早市、大村市、西海市、佐世保市、五島市、川棚町など

摘要

殻高5cmを越え、汽水域上限付近の泥から砂泥底に生息する。市内では、殻頂が欠けた個体や小型個体が多く、大型個体は少ない。河川内での生息範囲も狭く、個体数も多くない。大村湾側でも見つかっているが少ない。河川改修によってなくなった河川もあり、保全策が望まれる。



モノアラガイ (モノアラガイ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Radix auricularia japonica Jay

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 川下川、浦上川、八郎川など
県内 ; 壱岐市、諫早市、雲仙市、佐世保市、五島市など

摘要

殻高2cmほどになり、河川の下流部、溜池、用水路など止水域や流れが緩やかな場所に生息する。市内では、黒崎永田湿地自然公園などにみられるが局所的であり、自然分布であるかどうか、近似種(外来種)の判別など検討が必要な地域もある。生息地の改変や外来種との競合の可能性が懸念される。



ハザクラ (シオサザナミ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Psammotaea minor (Deshayes)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 多以良川、出津川、八郎川、式見川、宮崎川、江川川など
県内 ; 県内各所

摘要

殻長3cmほどになり、河川汽水域にある砂礫底に生息する。市内では、比較的多くの河川で見ついているが、汽水域が狭い河川が多いため、個々の河川では限られた狭い範囲で生息しているものと思われる。



ドブシジミ属の一種 (ドブシジミ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Sphaerium sp.

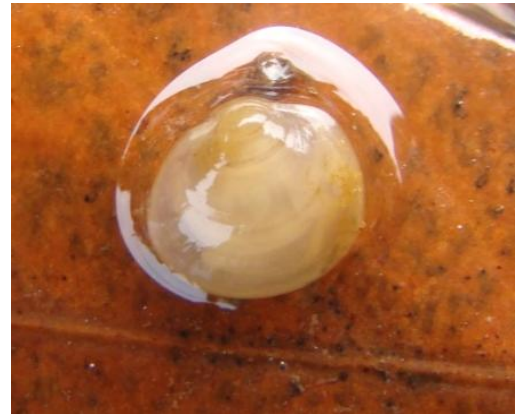
長崎県カテゴリー ; 情報不足 (DD)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 田原川、四戸ノ川、長浦川
県内 ; 平戸市、大村市、佐世保市、五島市、松浦市など

摘要

殻長1cmほどになり、河川の下流域、溜池、用水路など緩流域や止水域の泥底に生息する。市内では、河川の下流部や水田脇の集水桝で見ついている。河川改修などによる生息地の改変が懸念される。



シオヤガイ (マルスダレガイ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Anomalocardia squamosa (Linnaeus)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 北浦川、多以良川、西海川、手崎川、大川川、蚊焼大川など
県内 ; 壱岐市、諫早市、南島原市、大村市、佐世保市など

摘要

殻長3cmほどになり、河口や内湾の泥から砂泥干潟に生息する。市内でも確認地点は多いものの、西海川など多産する場所は一部で、大半がごく少数で確認されているのみである。長崎湾奥部の浦上川では古い死殻が確認されているのみである。



ツボミガイ (ユキノカサガイ科)

準絶滅危惧(NT)

Patelloida lampanicola (Habe)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 八郎川、西海川、戸根原川、手崎川、大川川、戸根川など
県内 ; 壱岐市、諫早市、小値賀町、島原市、西海市、佐世保市など

摘要

殻長6mmほどになり、河口や内湾の砂泥干潟に生息し、ウミナナなどの殻や二枚貝の死殻に付着していることが多い。市内では大村湾岸を中心に点在して見ついている。ウミナナと同様、市街地を中心に生息地が少なくなっているようである。



オオノガイ(死殻)に付着した個体

(3) — ③ 水生生物 (淡水性貝類)

カノコガイ (アマオブネガイ科)

準絶滅危惧(NT)

Clithon faba Sowerby

長崎県カテゴリー ; —
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 小江川、八郎川、三重川、神浦川、宮崎川、式見川など
県内 ; 諫早市、西海市、南島原市、対馬市、五島市、佐世保市など

摘要

殻径1cmほどになり、主に河川の汽水域にある石の上や護岸などの基質に付着している。殻表面は色彩変異が著しく、様々な模様が見られる。市内の生息地では、多産するところもあるが、やや局所的である。河川によっては河床の浚渫などの河川改修により生息環境が悪化している。



ミヤコドリ (ユキスズメガイ科)

準絶滅危惧(NT)

Cinnalepeta pulchella (Lischke)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 戸根原川、四戸ノ川、西海川、多以良川など
県内 ; 西海市、時津町、対馬市、川棚町、佐世保市、大村市など

摘要

殻径1cmほどになり、河口や内湾奥部の干潟などに生息する。泥などに埋もれた石の下に付着しているが、泥が黒くなっているような還元層で見つかることが多い。市内では、大村湾側でよく見つかっているが、それ以外の地域では産地が限られている。



コゲツノブエガイ (オニノツノガイ科)

準絶滅危惧(NT)

Cerithium coralium Kiener

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 多以良川、小江川、手崎川、鹿尾川、江川、八郎川など
県内 ; 西海市、佐世保市、五島市、新上五島町、対馬市など

摘要

殻高2cmを越え、河口や内湾の泥～砂泥底に生息する。一部は干潟上でも見つかるが、主に潮下帯や滞など干潮時でも干上がらない場所に多い。市内では長崎湾内や大村湾岸をはじめ各所で見つかっているが、市街地を中心に埋め立てなどにより生息地が減少している。



ウミナ (ウミナ科)

準絶滅危惧(NT)

Batillaria multiformis (Lischke)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 市内各所
県内 ; 県内各所

摘要

殻高3cmほどになり、市内ではハウジョウミナとして販売されていることがある。河口や内湾の泥～砂泥干潟に生息するが、砂礫浜でも見つかることがある。市内でもホソウミナと共に各所に生息しているが、市街地を中心に埋め立てなどにより減少しているようである。



フトヘナタリ (フトヘナタリ科)

準絶滅危惧(NT)

Cerithidea rhizophorum A.Adams

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
 環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 村松川、多以良川、大子川、神浦川、八郎川、江川川など
 県内 ; 県内各所

摘要

殻高4cmほどになり、河口や内湾奥部の潮間帯の中でも陸地側にある干潟に生息する。市内では、各地の河川に小規模な群生地が存在するが、護岸などにより容易に消失する場所が少なくない。

**ヘナタリガイ** (フトヘナタリ科)

準絶滅危惧(NT)

Cerithideopsis cingulata (Gmelin)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
 環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 多以良川、西海川、戸根川、八郎川、大江川、神浦川など
 県内 ; 対馬市、壱岐市、松浦市、佐世保市、五島市、諫早市など

摘要

殻高3cmほどになり、河口や内湾奥部の砂泥干潟に生息する。同じ科のフトヘナタリよりは潮位が低い場所でみられることが多い。市内では、大村湾岸を中心に生息地が点在している。本種は河川改修や浚渫などの影響を受けやすい。

**エドガワミズゴマツボ** (ミスゴマツボ科)

準絶滅危惧(NT)

Stenothyra edogawensis (Yokoyama)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 戸根川、西海川、村松川、長浦川
 県内 ; 西海市、長与町、大村市、諫早市、佐世保市など

摘要

殻高2mmほどの微小な種で、河口や内湾の泥～砂礫底に生息する。市内では、大村湾に注ぐ河川河口部の滞筋や潮下帯にある砂礫底上に海藻類が繁茂した場所で見つかることが多い。微小な種であり、河川改修や浚渫などで人知れず生息が脅かされている可能性がある。

**カワグチツボ** (ワカウラツボ科)

準絶滅危惧(NT)

Iravadia elegantula (A.Adams)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
 環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 戸根川、村松川、西海川
 県内 ; 諫早市、佐世保市、西海市、大村市、川棚町など

摘要

殻高4mmほどの微小な種で、河口や内湾の泥～砂礫底に生息する。市内では、エドガワミズゴマツボと同様に、大村湾に注ぐ河川河口部の滞筋や潮下帯にある砂礫底上に海藻類が繁茂した場所で見つかることが多い。微小な種であり、河川改修や浚渫などで人知れず生息が脅かされている可能性がある。



(3) ー ③ 水生生物 (淡水性貝類)

クルマヒラマキガイ(レンズ・ヒラマキガイ) (ヒラマキガイ科) 準絶滅危惧(NT)

Hippeutis cantori (Benson)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 川下川、大江川、田原川、琴海尾戸町
県内 ; 諫早市、大村市、五島市、雲仙市、南島原市、川棚町など

摘要

殻径1cmほどになる円盤状の巻貝で、湿地や水田脇の用水路、溜池、休耕田などの止水域に生息している。市内では黒崎永田湿地自然公園をはじめ生息地が点在しているが、水田の放棄など年間を通して湿潤な環境である場所自体が少なくなっている。



ヒラマキガイモドキ (ヒラマキガイ科) 準絶滅危惧(NT)

Polypylis hemisphaerula (Benson)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 川下川、池田川、岳路、形上湾奥部、田原川
県内 ; 対馬市、壱岐市、平戸市、佐世保市、西海市、雲仙市など

摘要

殻径5mmほどになる円盤状の巻貝で、湿地や水田脇の用水路、溜池、休耕田などの止水域に生息している。市内では川原大池をはじめ生息地が点在しているが、水田の放棄など年間を通して湿潤な環境である場所自体が少なくなっている。



ウネナシトマヤガイ (フナガタガイ科) 準絶滅危惧(NT)

Trapezium liratum (Reeve)

長崎県カテゴリー ; —
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 手崎川、西海川、大子川など
県内 ; 諫早市、雲仙市、佐世保市、平戸市、島原市など

摘要

殻長4cmほどになり、河口や内湾の泥～砂泥干潟上にある石の下に付着して生息している。市内では、大村湾岸で見つかっているが、あまり多くない。干潟の保全が必要である。



クチバガイ (テドリマスオ科) 準絶滅危惧(NT)

Coecella chinensis Deshayes

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 市内各所
県内 ; 県内各所

摘要

殻長3cmほどになり、河口や内湾の干潟で潮位の高い陸地側に生息している。市内では、各地で見つかっているが、市街地を中心に減少しているようである。その一方、人工的に造られた長崎湾奥部にある水辺の森公園内の干潟でも最近生息を確認している。



オキシジミ (マルスダレガイ科)

準絶滅危惧(NT)

Cyclina sinensis (Gmelin)

長崎県カテゴリー ; —
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 多以良川、八郎川、神浦川、西海川、大江川、大子川など
 県内 ; 県内各所

摘要

殻長5cmほどになり、河口や内湾の潮間帯から水深20mまでの砂泥底に生息する。県内では砂泥干潟などで普通にみられるが、市内では大村湾岸以外では点在する程度である。多以良川ではアサリと共に混獲され、食用となっている。

**バイ** (バイ科)

情報不足(DD)

Babylonia japonica (Reeve)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 長崎半島南部の橘湾側(死殻のみ)など
 県内 ; 島原市、大村市、五島市など(死殻のみの確認を含む)

摘要

殻高7cmほどになり、潮間帯から水深10mほどの砂泥底に生息している。市内では、海岸に死殻が打ち上げられる程度であるが、他の地域のものを利用したのち、海岸に廃棄した可能性もあり、現在も市内に生息しているかははっきりしない。なお、スーパーで販売されているものの多くは、海外産の別種である。

**ドブガイ** (イシガイ科)

情報不足(DD)

Anodonta woodiana (Lea)

長崎県カテゴリー ; —
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 川原大池、大江川(死殻)、鹿尾ダム、浦上水源池
 県内 ; 雲仙市、南島原市、諫早市、壱岐市、佐世保市など

摘要

殻長10cmを越え、河川の下流部にある緩流域、用水路、溜池などに生息する。市内ではダムなどで見つかっているが、自然分布であるか判然としない。本種のグロキディウム幼生は、底生魚などの鰓などに付着し寄生生活することから、魚類の放流などによって本種も移動する可能性がある。また、本種には生殖的に隔離した2種の

**マシジミ** (シジミ科)

情報不足(DD)

Corbicula leana Prime

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
 環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 八郎川、浦上川、中島川、村松川、西海川、三重川など
 県内 ; 県内各地

摘要

殻長2cmほどになり、河川や用水路など流れが緩やかな場所に生息する。市内では、水路など砂礫底の細流で見つかることが多いが、外見が類似したタイワンシジミなどの外来シジミ類との区別が明確でない。市内の一部でもすでにこれらの外来シジミ類に置き換わっている可能性がある。



(3) — ③ 水生生物 (淡水性貝類)